

5. 障害者と公民館

公民館事業として、障害者に対する取り組みが実施されたのは昭和60年度からであった。

それまでは、憲法第26条や教育基本法第3条にある「すべての国民がひとしくその能力に応じる教育を受ける権利」の保障があったにも関わらず、実際には、昭和56年の国際障害者年をひとつの契機としてはじめて実施されたのである。

ここで、実施されてきた10年の事業をふりかえってみると、障害者に対する事業が硬直化しつつあるように感じられる。

昭和62年～平成8年はいずれも「障害者青年学級にじのはらっぱ」と「聴覚障害者のための映画会」に終始しているからである。

このことは、障害者対象の事業が、ある程度安定し、さらに深めていくための成長期に入ったことを示すものであると思うが、同時に現状に甘んじて障害者事業に対する新たな取り組みを見失い、危機感・目的を失い、ただ事業を維持していただくのマンネリ化傾向になりつつある状態であるともいえよう。

ここで個々の事業についてふれてみたい。

まず、「障害者青年学級にじのはらっぱ」であるが、事業実施の目的は「長い間社会から隔離されてきたことにより、障害者自身の発達が阻害され、同時に障害者への正しい理解がないために言われのない差別や偏見を生むことにつながってきた。そういった差別や偏見を取り除き、ひとりの市民として生きていけるよう当たり前の町をつくっていく」ことである。この目的は今なお事業の根底にある大前提として受け継がれているのである。具体的なプログラムとしては、「市民ロードレース」への参加や「文化祭」への作品展示、「公民館のつどい」分科会運営・参加などの市民と一緒に作る事業に積極的に参加するもの、「ハイキング」や「小さな旅」「ふっさ七夕見学」

など楽しみながらも社会の中へどんどん出掛けていき、周囲の人達へアピールするもの、「工作」「調理実習」など自分達でつくりあげ、また、技術・知識を習得する喜びを知るもの、「4市交流事業」「弁論大会」など友人・知人はじめ社会へ自己表現するもの、「宿泊学習」などが挙げられる。

また、昭和63年度に学級生運営委員会を置いたことにより、学級生主体の活動に切り替わり、平成6年度からは「学級生企画」とよばれる運営委員による企画・下見・当日の運営といったプログラムが定着化しているのは特筆すべきことであろう。

回数にして年間22回の事業ではあるが、自己を高めるだけではなく、人と関わり合っていくことを通して、受け身的であった障害者自身を自発的・積極的に行動できる人間へと変えていきたいという願いのもと実施しているのである。

しかし、平成8年度で12年を経過した「障害者青年学級にじのはらっぱ」にいくつかの問題も出てきている。

まず、当初から関わっていただき指導者としても重責を担っていた講師が平成7年度をもって誰もいなくなり、若いスタッフやボランティアで学級運営をしていかなければならなくなったことである。さらにそのスタッフやボランティアにもライフスタイルの変化の時期とぶつかる中（結婚や就職、会社での勤務状況など）学級運営に対して安定した関わりが難しい状況になってきていることである。

さらに、参加者の硬直がすすんでおり、青年学級というよりも成人学級への進行がすすんでいる状況である。

そして、プログラム内容のマンネリ化傾向がある。その原因のひとつには参加者の高齢化や障害

の度合いが重くなってきていることに伴って活動内容・範囲が年々狭まってきていることがある。

これらの問題点を解決するには、公民館として実施する障害者対象の事業を今一度見つめ直さなければならぬ。

社会の一員として当たり前生きていくためのきっかけ事業として考えるならば、他の階層の事業との連携のもと様々な事業での参加の方策を検討したり、地域社会で活躍できる場を提示し援助することの他に、現代の社会状況をふまえたうえで若いスタッフやボランティアと共に新しい「障害者青年学級にじのはらっぱ」を作り上げていかなければならぬ。

次に「聴覚障害者のための映画会」であるが、昭和62年度～平成8年度はいずれも年4～5回実施されている。

この映画会の趣旨としては「日頃邦画を楽しむ機会の少ない聴覚障害者のために、字幕入り邦画を上映し映像文化に接する機会とする」であるが、この事業にも問題点が出てきている。

それは、参加者に固定客が多く、十分に聴覚障害を持つ市民に浸透されていないことである。

固定客が多いことは決して悪いことではないが、映像文化にふれる機会を考えるうえでは、もっと多くの参加者が来るよう考えていかなければならない。

現在では、隔月の固定曜日、固定時間に限定されているので、今後は実施曜日・時間帯・内容を考慮した上で、PR方法や関係団体（例えば福祉部・社会福祉協議会・作業所・福生市身体障害者福祉協会・福生市手をつなぐ親の会など）との連携のもと事業実施していくべきであろう。

今後の展望としては、障害者の社会参加を当たり前のものとし、また、社会的自立をしていくために公民館事業を実施していくという昭和60年当時の目的を継続させているのであれば、障害者対象の事業を今一度点検し、整理しなければならぬ

いと考える。

まず、第1に障害者自身のための学習の場として、第2に障害者が社会参加していく時に側面からバックアップしてくれる人達を育成するための学習の場として、第3に障害者が社会に出ていった時にきちんと整備された地域社会基盤をつくっていける地域市民の障害者に対する意識を持ってもらうための学習の場、この3点が事業として実施されていくことではじめて障害者にも住みやすいまちがつけられていくのである。

障害者対象の事業が実施された昭和60年から今なお引き継がれているこの柱を基本に、今後は「障害者青年学級にじのはらっぱ」「聴覚障害者のための映画会」をさらに充実した事業に、また新たな事業を展開していく必要があるだろう。

「にじのはらっぱ」の12年

元担当職員 高橋 邦彦

昭和60年6月の障害者青年学級「にじのはらっぱ」開設以前の1年間、その開設準備として、その目的や運営方針についての研究が進められた。その中で、一つの指針として（図1）のような運営のためのアプローチ図が提案された。

これはまさしく学級生が基礎的生活習慣を身に付けると同時に、障害者も地域の大事な一員として認められる地域社会づくりを達成するための考えられる方途を示していた。

開設後12年を経て、一つひとつその到達度を検証してみたい。

まず運営会議であるが、これは当初講師・スタッフ・職員の間で毎回の介助体制や段取りの確認、学級の企画や運営のための会議であったが、開設数年後より学級生より運営委員を募り、夜間に運営委員会を開き、自らの活動を主体的に考え合っていく場になり、より充実してきている。

次に合宿であるが、当初は夏期のみであった合宿も翌年より冬期も加わり年2回になっている。丸1日の時間帯で生活を共にする中で、より親しい関係を持ち合い、また基礎的生活習慣を身につける総合化された学習の場にもなっている。

また、一般のサークルとの交流であるが、これは活動の中でサークルより講師を招いたり、文化祭・公民館のつどい等でも交流を持ち得ている。

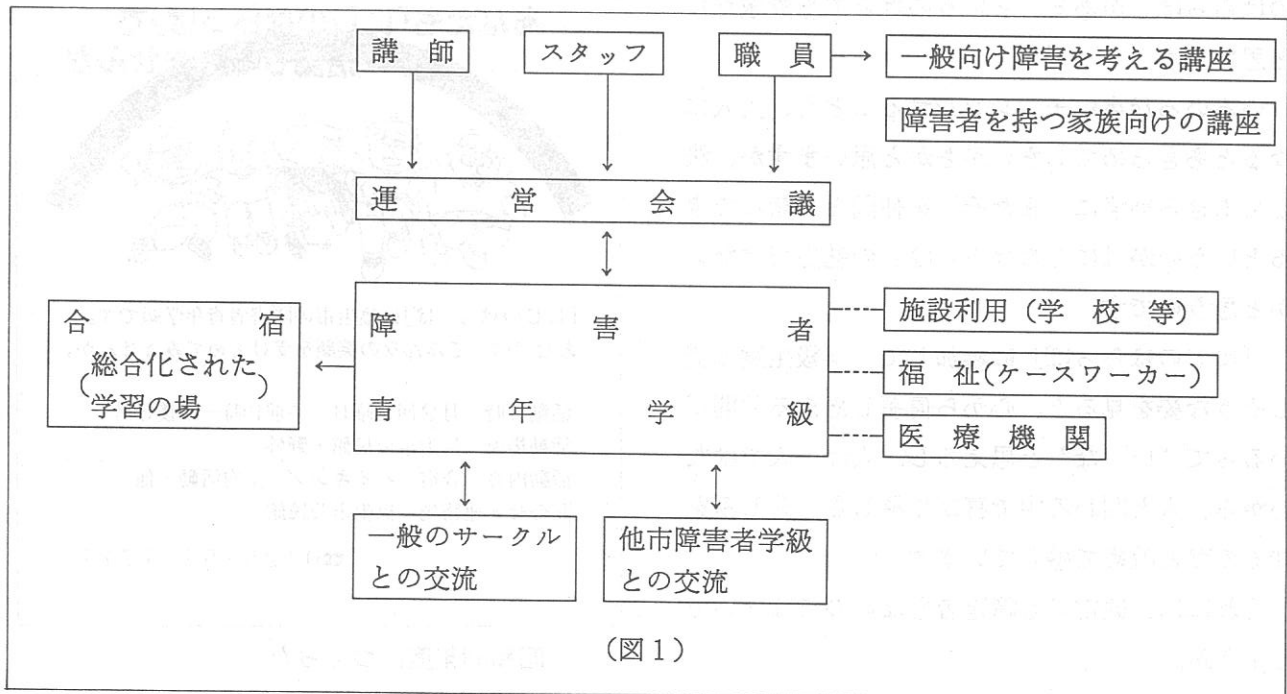
さらに他市障害者学級との交流であるが、これも当初は羽村市との交流だけであったが、その後、秋川（現あきる野）、青梅とつながりを増やしていった。学級生の生活は福生の中でのみ帰結しているのではなく、他市の福祉作業所や企業に就労している。障害者の生活全般のフォローアップを考え、広い意味でのこの地域の障害者福祉の向上のためにも他市学級との交流は意味を持つてくるものである。

次に福祉・医療機関等との連携であるが、これらとの連携は開設当初からの課題であったが、これは地域・職場・家庭等におけるトータルな諸問題の解決のためにも必要となってくるものと考え

られる。教育機関の公民館こそ、その連携の要となりうる可能性のある機関であるので、今後の連携が望まれる。

一般向けの障害を考える講座と障害者を持つ家族向けの講座であるが、これは障害者青年学級の目的にも関わる事業と考えられる。障害者が社会の一員として生活していくためには、広く市民の理解と協力が必要である。学級生の基礎的生活習慣の向上のみならず、彼らの生活の受け皿となる地域を、障害者に差別や偏見のない誰にも住みやすい社会にしていく事が、学級に来られない障害者やひいては老人や妊婦、さらに市民一般にもこの学級の成果を還元する事につながる。これらの取組みの復活が望まれよう。

いずれにしろ開設後12年を経て「にじのはらっぱ」は、障害者を取り囲む問題を考える上で大きな一つの核となりえている。また、生涯のいかなる時期、いかなる市民にもひらかれた教育を標榜する公民館の20年にあっても、この学級の存在は大きな意味があるものであるし、この意味合いは今後ともますます増大していくものであろう。



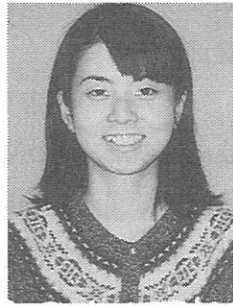
「にじのはらっぱに参加して」

障害者青年学級

「にじのはらっぱ」

スタッフ

徳田 布美枝



私が「にじのはらっぱ」に参加するようになり7年が過ぎました。月並みな言葉ですがとてもそんな気がしません。

しかしながら、学級生と私自身との信頼関係やコミュニケーションという面で思うと、7年という年月は確かに存在していて、多くの経験をして今の自分があるということを強く感じます。

そして「にじのはらっぱ」は、私にたくさんの出会い、再会を与えてくれました。これから先もどんな出会い、また、学級生達のどんなチャレンジがあるのかとても楽しみです。

成人になり、それぞれの道を進んでいる学級生達が、月に2回、仲間と集まる場所がある、「にじのはらっぱ」がある、というのはとても素敵だと思います。

いろいろな事にチャレンジすることも、大人になるとあきらめてしまいがちかと思いますが、決してあきらめずに、またそれを仲間と一緒にできるというのが「にじのはらっぱ」の魅力ではないかと思うのです。

「にじのはらっぱ」に参加して、学級生達の楽しそうな姿を見ると、心から信頼しあえる仲間がいるって“いいな”と思えるし、人は一人ではないから、人と関わる中で喜びや優しさ、悲しみを知らのだと改めて感じています。

それには、健常者も障害者もないのではないのでしょうか。

誰もが支え、支えられて生きているのです。

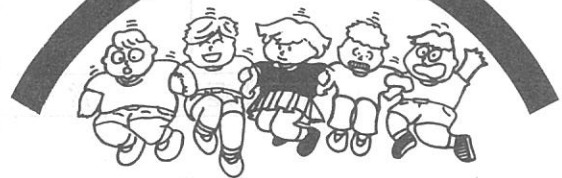
個性豊かな学級生、職員、スタッフ、ボラン

ティアのみなさんと、いろいろな事にチャレンジしていく姿が、福生市で、また他の場所でも見ていただくことができればと思いますし、「にじのはらっぱ」の未来、可能性は無限に広がっていると思います。



青年男女 ボランティア募集

あなたも「にじのはらっぱ」で
活動してみませんか



「にじのはらっぱ」は福生市の障害者青年学級です。
あなたの手でみんなの笑顔を受けとめてみませんか。

活動日時 月2回日曜日 午前10時～午後3時

活動場所 福生市公民館・野外

活動内容 合宿・ハイキング・室内活動・他

問合せ・連絡先 福生市公民館

☎0425-52-1711

昭和63年度につくった

ボランティア募集のポスター

昭和62年度

青年学級「にじのはらっぱ」(障害者青年学級)

期 間 昭和62年5月10日(日)～63年3月13日(日) 午前10時～午後3時

会 場 公民館及び野外

参加者 27人×22回=594人

月 日	内 容	場 所
5. 10	開級式	公 民 館
24	文化祭作品づくり(陶芸)	
6. 7	ボーリング	
21	ハイキング	昭 和 記 念 公 園
7. 5	公民館のつどい参加	"
19	河川清掃	多 摩 河 原
8. 2	プール	
16～17	夏季合宿	山 中 湖
9. 6	プール、調理	
20	社会科見学	
10. 4	文化祭作品づくり	公 民 館
10	"	"
11. 1	文化祭	"
15	ハイキング	
12. 6	忘年会	
20	演劇鑑賞	公 民 館
1. 10	新年会、ゲートゴルフ	体 育 館
24	ハイキング	
2. 7	公民館の青年とのスポーツ大会	体 育 館
21	プール、合宿打合わせ	多 摩 障 害 者 ス ポー ツ ・ セ ン タ ー
28～29	冬季合宿、苗場	
3. 13	閉級式	公 民 館

聴覚障害者のための映画会

会 場 公民館

参加者 90人

月 日	作 品 名	入場者数
5. 22	そ れ か ら	20人
7. 31	転 校 生	23人
11. 28	二 十 四 の 瞳	27人
2. 26	ね む の 木 の 詩	20人

昭和63年度

青年学級「にじのはらっぱ」(障害者青年学級)

期 間 昭和63年5月15日(日)～平成元年3月12日(日) 午前10時～午後3時

会 場 公民館および野外

参加者 28人×22回=616人

月 日	内 容	場 所
5. 15	開 級 式	公 民 館
29	ハイキング	多 摩 動 物 園
6. 5	室内活動	公 民 館
19	〃	〃
7. 10	公民館のつどい	〃
17	河川清掃	多摩河原、公民館
7.31~8.1	夏季合宿	苗 場
8. 21	プ ー ル	福 生 一 中
9. 11	室内活動	公 民 館
25	スポーツ交流(参加…羽村、青梅)	福生三小体育館
10. 9	いも煮会、陶芸野焼き	多 摩 河 原
23	社会科見学	浅草・隅田川川下り
11. 6	市民文化祭	公 民 館
27	弁論大会(参加…羽村、秋川、世田谷)	〃
12. 4	ハイキング	六 道 山
18	忘 年 会	福生会館ホール
1. 8	新年会、ゲートゴルフ	福生市民体育館
29	ハイキング	日 の 出 山
2. 5	ボーリング大会	中神ヤングボウル
19	合宿打合せ	公 民 館
26~27	冬季合宿	那 須 塩 原
3. 12	閉 級 式	公 民 館

聴覚障害者のための映画会

会 場 公民館

参加者 69人

月 日	作 品 名	入 場 者 数
5. 27	紳 士 同 盟	10人
8. 26	父ちゃんのポーが聞こえる	12人
11. 25	ふたりのイーダ	17人
1. 27	あぶない刑事	15人
2. 17	火 宅 の 人	15人

平成元年度

青年学級「にじのはらっぱ」(障害者青年学級)

期 間 平成元年5月14日(日)～平成2年3月11日(日)

会 場 公民館本館および野外

参加者 26人×22回=572人

月 日	内 容	場 所
5. 14	開 級 式	公 民 館
28	ハイキング	草 花 丘 陵
6. 11	室内活動(音楽)	公 民 館
25	高尾自然科学館	高 尾
7. 9	公民館のつどい	公 民 館
23	河川清掃・合宿打合せ	多 摩 河 原
30～31	夏季合宿	西 湖
8. 13	プール	一 中 プ ー ル
9. 3	室内活動(陶芸)	公 民 館
17	スポーツ(スポーツ)	三 小 体 育 館
10. 15	室内活動(調理)	公 民 館
22	社会科見学	原 宿
11. 5	文化祭・弁論大会準備	公 民 館・白 梅 分 館
19	いも煮会	南 公 園
12. 10	弁論大会	公 民 館
17	忘年会	松 林 分 館
1. 7	新年会、書き初め(文字)	公 民 館
21	室内活動	〃
28	交流ボーリング大会	ダイヤモンドボール
2. 18	合宿打合せ	公 民 館
25～26	冬季合宿	苗 場
3. 11	閉 級 式	公 民 館

聴覚障害者のための映画会

期 間 平成元年4月28日(金)～平成2年2月23日(金)

会 場 公民館本館

参加者 70人

月 日	作 品 名	入 場 者 数
4. 28	塀の中の懲りない面々	17人
6. 30	新・喜びも悲しみも幾年月	20人
10. 27	1000年女王	15人
2. 23	野菊の如き君なりき	18人

平成2年度

青年学級「にじのはらっぱ」(障害者青年学級)

期 間 平成2年5月13日(日)～平成3年3月24日(日)

会 場 公民館本館および野外

参加者 21人×22回=462人

月 日	内 容	場 所
5. 13	開 級 式	カニ坂公園
27	班 活 動	公 民 館
6. 10	ハイキング(青梅丘陵・多摩川土手2コース)	
24	班 活 動	公 民 館
7. 8	公民館のつどい・工作	"
22	河川清掃	多 摩 河 原
8. 5	プール・合宿打合せ	一 中 プ ー ル
12～13	夏季合宿	西 湖
9. 9	スポーツ交流	羽村養護学院
30	班 活 動	公 民 館
10. 21	社会科見学	葛西臨海水族園
11. 4	市民のロードレース	市 内
25	市内史跡ハイキング	"
12. 9	弁論大会	市民会館小ホール
16	ハイキング	都 民 の 森
1. 6	新 年 会	公 民 館
27	班 活 動	"
2. 3	合宿打合せ	"
17	ボーリング大会	中神ヤングボール
3. 3～4	冬季合宿	草 津
17	映画鑑賞	新 宿
24	閉 級 式	公 民 館

聴覚障害者のための映画会

期 間 平成2年4月27日(金)～平成3年3月15日(金)

会 場 公民館本館

参加者 90人

月 日	作 品 名	入 場 者 数
4. 27	神様のくれた赤ん坊	15人
6. 29	天国と地獄	15人
8. 31	瀬戸内少年野球団	18人
11. 9	男はつらいよ	12人
1. 25	花いちもんめ	17人
3. 15	男はつらいよ	13人

平成3年度

障害者青年学級「にじのはらっぱ」

期 間 平成3年5月12日（日）～平成4年3月22日（日）

会 場 公民館本館および野外

参加者 20人×22回=440人

月 日	内 容	場 所
5. 12	開 級 式	多 摩 川 中 央 公 園
26	ハイキング	巾 着 田
6. 9	八王子子ども科学館見学	八 王 子
23	班 活 動（工作・調理・手芸・運動）	公 民 館
7. 14	〃	〃
21	河川清掃	多 摩 河 原
8. 4～5	夏季合宿	西 湖
18	プ ー ル	一 中 プ ー ル
9. 8	スポーツ交流	羽 村
29	班 活 動	公 民 館
10. 13	〃	〃
20	ボーリング大会	中 神 ヤング ボウル
11. 4	市民ロードレース・いも煮会	多 摩 川 中 央 公 園
10	ハイキング	大 岳 山・御 岳 山
12. 8	社会科見学「ディズニーランド」	ディズニーランド
22	忘 年 会	福 祉 会 館
1. 5	新 年 会（茶会）	公 民 館
19	弁論大会	市 民 会 館 小 ホール
2. 9	班 活 動（運動班は羽村市温水プール）	公 民 館
23	昭和記念公園でスケート・サイクリング・散策	昭 和 記 念 公 園
3. 8～9	冬季合宿	草 津
22	閉 級 式	公 民 館

聴覚障害者のための映画会

期 間 平成3年5月24日（金）～平成4年3月14日（金）

会 場 公民館本館

参加者 87人

月 日	作 品 名	入 場 者 数
5. 24	銀河鉄道の夜	20人
7. 26	ラブストーリーを君に	15人
11. 22	華 の 乱	20人
1. 24	用 心 棒	17人
3. 14	釣りバカ日誌2	15人

平成4年度

障害者青年学級「にじのはらっぱ」

期 間 平成4年5月17日（日）～平成5年3月14日（日）

会 場 公民館および野外

参加者 24人×22回=528人

月 日	内 容	場 所
5. 17	開 級 式	多 摩 川 中 央 公 園
31	ハイキング	羽 村 堰
6. 14	作品作り	公 民 館
28	〃	〃
7. 19	河川清掃	多 摩 河 原
26	ボーリング大会	中神ヤングボール予定
8. 8～9	夏季合宿	西 湖
23	プール	福 生 1 中
9. 13	ハイキング	昭 和 記 念 公 園
20	作品作り	公 民 館
10. 4	スポーツ交流	羽 村、青 梅 市
25	社会科見学	上 野
11. 8	市民ロードレース	市 内
29	ディスコパーティー	秋 川 市
12. 6	弁論大会準備	公 民 館
13	弁論大会	〃
1. 17	新年会	市 内
31	スケート大会	昭 和 記 念 公 園
2. 14	バレンタインケーキ作り	公 民 館
2.28～3.1	冬季合宿	草 津
3. 7	映画鑑賞	新 宿
14	閉 級 式	公 民 館

聴覚障害者のための映画会

期 間 平成4年6月12日（金）～平成5年3月12日（金）

会 場 公民館本館

参加者 87人

月 日	作 品 名	入 場 者 数
6. 12	遺 産 相 続	17人
9. 11	つ ぐ み	17人
11. 20	釣りバカ日誌	21人
1. 29	となりのトトロ	17人
3. 12	イ タ ズ	15人

平成5年度

青年学級「にじのはらっぱ」

期 間 平成5年5月9日（日）～平成6年3月20日（日）

場 所 公民館本館及び野外

参加者 27人×22回=594人

月 日	内 容	場 所
5. 9	開級式「平成水と緑の大奔会」	多摩川中央公園
23	ハイキング	てんぐ岩自然歩道
6. 6	野球観戦	西武球場
27	作品作り・合奏練習	公民館
7.17～18	夏季合宿	清里
25	ボーリング大会	中神ヤングボウル
8. 8	プール	福生一中
15	プール	〃
9. 5	VOICE'93	昭和記念公園
12	作品作り・合奏練習	公民館
10.10	スポーツ交流	羽村養護学校
24	ピーナツ掘り・作品作り	市内・れんげ園
11. 7	市民ロードレース	市内
14	ディスコ大会	秋川市中央公民館
12. 5	弁論大会準備	公民館
12	弁論大会	〃
1. 9	新年茶会	福庵
23	社会科見学「大江戸博物館」	両国
2. 13	雪遊び	公民館
27	クッキング・合宿打合せ	〃
3.13～14	冬季合宿	水元青年の家
20	閉級式	公民館

聴覚障害者のための映画会

期 間 平成5年5月28日～平成6年2月4日

会 場 公民館本館視聴覚室

参加者 85人

月 日	作 品 名	入 場 者 数
5. 28	福 沢 諭 吉	19人
7. 9	渋 滞	15人
10. 8	ぼくらの七日間戦争パートⅡ	13人
11. 12	熱海殺人事件	21人
2. 4	しこふんじゃった	17人

平成6年度

障害者青年学級「にじのはらっぱ」

期 間 平成6年5月1日（日）～平成7年3月19日（日）

場 所 公民館本館及び野外

参加者 26人×22回=572人

月 日	内 容	場 所
5. 9	開級式	公 民 館
22	ハイキング	多 摩 動 物 公 園
6. 5	グループ活動・合奏練習	公 民 館
26	野球観戦	東 京 ド ー ム
7. 17	ボーリング大会	中 神 ヤ ン グ ボ ウ ル
24	河川清掃・写生	多 摩 川 中 央 公 園
8. 7	プール・合奏練習	福 生 一 中
21	プール・合宿打合せ	〃
9. 3～4	夏季合宿	清 里
25	物をつくる	公 民 館
10. 9	スポーツ交流	羽 村 養 護 学 校
23	紅葉狩りハイキング	展 覧 山
11. 6	市民ロードレース	市 内
13	ディスコ大会	秋 川 市 民 体 育 館
12. 4	弁論大会準備	公 民 館
11	第7回弁論大会	〃
1. 8	小さな旅	横 浜
29	学級生企画	昭 和 記 念 公 園
2. 19	いちご狩りハイキング	芦 ヶ 久 保
26	クッキング・合宿打合せ	公 民 館
3.12～13	冬季合宿	清 里
19	閉級式	公 民 館

*当日の反省及び次回の打合せのための「スタッフミーティング」は毎回活動日に行った。

その中で「スタッフ研修会」「人工呼吸講習会」も行った。

*学級生による「運営委員会」は必要に応じて行った。「学級生企画」では計6回開かれた。

聴覚障害者のための映画会

期 間 平成6年4月22日～平成7年1月27日

会 場 公民館本館視聴覚室

参加者 82人

月 日	作 品 名	入 場 者 数
4. 22	ミンボーの女	16人
6. 17	黒い雨	18人
9. 2	思えば遠くへきたもんだ	16人
11. 11	パンツの穴	16人
1. 27	火垂るの墓	16人

平成7年度

障害者青年学級「にじのはらっぱ」

期 間 平成7年5月7日（日）～平成8年3月17日（日）
 会 場 公民館本館、野外
 参加者 25人×22回=550人

月 日	内 容	場 所
5. 7	開級式	多摩川中央公園
28	ハイキング	青梅丘陵
6. 4	班活動	公民館
18	ボーリング大会（学級生企画）	中神ヤングボウル
7. 2	物をつくる	公民館
23	河川清掃・野球	多摩川中央公園
8. 13	プール・合奏	福生一中
27	プール・合宿打合わせ	〃
9. 3	物をつくる	公民館
10～11	夏季合宿	草津
10. 1	スポーツ交流	羽村市内
15	障害者運動会	福生市内
11. 5	市民ロードレース・合奏	〃
26	弁論大会準備・合奏	公民館
12. 3	弁論大会準備・合奏	〃
10	弁論大会	〃
1. 7	新年会	〃
21	学級生企画	戸田
2. 18	テレビ局見学	渋谷
25	クッキング・合宿打合わせ・16ミリ映画鑑賞	公民館
3. 10	冬季合宿	清里
17	閉級式	公民館

* 当日の反省及び次回の打ち合わせのため、「スタッフミーティング」は毎回活動日に行った。
 その中で、「スタッフ研修会」「人工呼吸講習会」も行なった。

* 学級生による「運営委員会」は、必要に応じて行った。学級生企画では、計年6回開かれた。

聴覚障害者のための映画会

期 間 平成7年4月20日～平成8年2月23日
 会 場 公民館本館視聴覚室
 参加者 56人

月 日	作 品 名	入 場 者 数
4. 20	風の又三郎～ガラスのマント～	8人
6. 23	わが愛の譜～滝廉太郎物語～	10人
9. 22	天城越え	12人
12. 15	それから	9人
2. 23	鎌田行進曲	17人

平成8年度

障害者青年学級「にじのはらっぱ」

期 間 平成8年5月12日（日）～平成9年3月16日（日）

会 場 公民館本館、野外

参加者 22人×22回=484人

月 日	内 容	場 所
5・12	開級式	多摩川中央公園
26	ハイキング	高尾山
6・9	調理・合奏練習	公民館
23	工 作	〃
7・14	ボーリング大会	サンボウル
28	合奏練習	公民館
8・4	プール	福生一中
18	プール・合宿打合わせ	〃
9・7～8	夏季合宿	山中湖
22	工 作（中止）	公民館
10・13	4市交流ディスコ大会	あきる野市
27	工 作	公民館
11・3	市民ロードレース	福生市内
17	4市交流スポーツ大会	青梅市内
12・8	小さな旅	お台場
15	忘年会（学級生企画）	公民館
1・12	弁論大会準備・合奏練習	〃
19	弁論大会	〃
2・16	16ミリ映画鑑賞・合宿打ち合わせ	〃
23	ハイキング（学級生企画）	浅草
3・1～2	冬季合宿	伊豆熱川
16	閉級式	公民館

* 当日の反省及び次回の打ち合わせのため、「スタッフミーティング」は毎回活動日に行った。その中で、「スタッフ研修会」「人工呼吸講習会」も行った。

* 学級生による「運営委員会」は、必要に応じて行った。学級生企画では、計年6回開かれた。

聴覚障害者のための映画会

期 間 平成8年6月22日～平成9年3月14日

会 場 公民館本館視聴覚室

参加者 73人

月 日	作 品 名	入 場 者 数
6. 22	僕らはみんな生きている	15人
9. 13	スペインからの手紙	12人
11. 15	居酒屋ゆうれい	12人
1. 24	またまたあぶない刑事	15人
3. 14	釣りバカ日誌3	19人